

「全ての子どもに情報モラル教育を」

－ 巡回授業プロジェクト3年目の成果 －

柏市教育委員会 教育研究所 IT教育支援アドバイザー 田中香穂里

キーワード：情報モラル、ICT支援員、巡回授業

1. プロジェクト発足の経緯

学習指導要領における教育の情報化については、小学校では、「情報機器の基本的な操作や情報モラルを身に付けるとともに、情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動を充実する」となっており、中学校では、「情報モラルを身に付けるとともに、適切かつ主体的・積極的に活用するための学習活動を充実する」と明記されている。しかし、実際全ての学校の全ての学級において、情報教育が適切に実施されているとはいえない状況だった。教員のICT活用指導力等の実態調査の結果においても、教師がICTを活用した授業を行う事ができる割合は年々増加しているのだが、その割合に比べ、児童・生徒へのICT活用や情報モラルの指導する能力の数は低いものとなっている。

そこで平成26年度より、柏市内小中学校全62校に対し、該当学年の全学級にITアドバイザーが出向き、同じ内容の授業を実施することで、児童生徒に情報活用の実践力と情報モラルを育成するという巡回授業プロジェクトを立ち上げた。そのための授業パッケージの開発を行い、実践をしている。

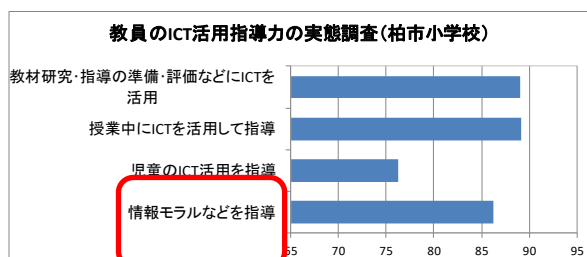


図1 柏市の教員のICT活用指導力の実態

2. 目的・目標

(1) 担任、保護者、子ども達への巡回授業

情報モラルの巡回授業の特徴として、学校へ出向いたITアドバイザーが、担任と一緒にクラス単位で行うということにある。また今年度からは、保護者にも参加してもらうために、学校から手紙を出してもらい、授業を自由に参観してもらえるように設定した。社会状況やクラスの実態を担当や保護者が把握していない事も多く、一緒に考えてもらう場になっている。その後、学級や家庭での話し合いのきっかけにしてもらおうという目的がある。

(2) 各部署との連携

3年目となったこのプロジェクトでは、色々な部署と連携することで、さらなる効果を図ろうとしている。「ネット非行防止連絡会」が発足され、そこで市全体で「子ども達をネットのトラブルから守って行こう」という取り組みを行っている。教育委員会の生徒指導室・教育研究所(ITアドバイザー含む)・少年補導センター等の各部署の担当者が集まり、情報モラル教育やネットトラブルの防止などについて、情報交換や新しい取り組みなどを話しあっている。巡回授業の内容も毎年この会議内で検討し、改善を行っている。

3. 実践内容

3.1 子ども達への巡回授業での取り組み

情報モラル教育を行う場合、体育館などに集まって、講義形式でおこなわれる事が多かった。今回の巡回授業の内容を考える際に一番気をつけた事が、受身の授業にならないようにするという事である。コンピュータ室を利用し、一人ひとりが操作をしながら、参加できる内容で組み立てている。クイズ・アンケート・スライド・ビデオと色々なツールを利用することで、飽きることがないように工夫している。

また、参観の保護者にも同時に学んでもらう事で、家庭でのルール作りなどに役立ててもらっている。

小学6年生の情報モラル授業(45分)

- ① 授業支援ソフトのアンケート機能を利用し、家庭でのネット利用の実態をクラス内で確認する。
- ② 「インターネットクイズ」を通して、ネットでのルールやマナーを覚える。(解説で再度確認)
- ③ 4つの代表的なSNSについて開発された経緯・特徴・便利な利用方などを説明し、正しい使い方の知識をつけてもらう。
- ④ ビデオ教材「SNSトラブル」(文科省)で、身近で起こりうるトラブル事例を見て考える。
- ⑤ 担任による本時のまとめ。

図2 小学6年生の授業で使用する教材

中学2年生の情報モラル授業(50分)

- ① 授業支援ソフトのアンケート機能を利用し、平日のネット利用時間の実態をクラス内で確認する。
- ② 「ネット依存チェック」の間に答えながら、依存度のチェックを行い、各自の依存度を確認する。(デジタルアーツWEBコンテンツ利用)
- ③ 「ネットモラルクイズ」で市内で実際に起こったト

ラブル事例等から、違法性などを確認する。

(正解率が低いので、終了後詳細な説明)

④ 4つの代表的なSNSについて開発された経緯・特徴・便利な利用方などをスライドで説明し、正しい使い方などの知識をつける。

⑤ ビデオ教材「情報の記録性・公開性の重大さ」(文科省)を見て、問題点を考える。

⑥ スライド教材(GREE提供)の一部を利用し、ネットトラブルによる将来への問題などを中心に解説する。自分達が今後ネットを利用する際に、気を付けるべき事をきちんと認識させる。

⑦ 担任による本時のまとめ。



図3 中学2年生の授業で使用する教材

3.2 各部署との連携での取り組み

<p>全小学6年 ★ITアドバイザー 巡回授業 「ネットのルールマナー」</p> <p>全中学1年 少年補導センター 学年集会 「スマホ安全教室」</p> <p>全中学2年 ★ITアドバイザー 巡回授業 「依存・SNSトラブル」</p>	<p>少年補導センター サイバーパトロール・相談室</p> <p>生徒指導室 ネットトラブル対応</p> <p>教育研究所 情報モラル向上カリキュラム作成</p>
--	---

図4 教育委員会の各部署での取り組み

「ネット非行防止連絡会」を中心に、各部署と連携して色々な取り組みを行っている。その中のひとつに、毎年12月に行われている「中学生によるネットトラブル防止会議」がある。市内の各中学校から代表2名の生徒と、PTA代表・教員が集まり、それぞれの立場から意見を出し合い、柏市としてのルール作りなどを行っている。

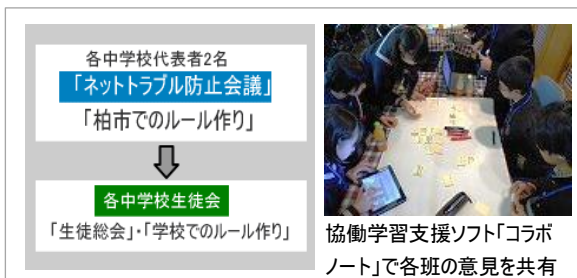


図5 中学生によるネットトラブル防止会議

4. 成果

保護者による参観を実施した結果、保護者からは、「家庭での共通の話題ができた。ルール作りのきっかけになった。」などの話を聞くことができた。

また、授業後の担任のアンケートに、「この授業の後に、学級活動で話し合いの時間を設けた。」というコメントがあり、巡回授業を行う目的のひとつである、「続きは担任に・・・」が少しずつ浸透してきているように感じている。また、教育研究所が作成している、情報モラル向上プログラムを利用し、道徳などの時間に取り組みでくれているという例も聞いている。

はたして、この取り組みによる成果は出ているのかということ調べるため、柏市学校警察連絡協議会が毎年行っている、生活実態調査アンケートの結果を見る事にした。このプロジェクトの実施前と実施後のアンケート結果を比較した。

中学2年生における、スマートフォンの所持率やLINEの使用率は年々確実に上がってきているのに対して、「ネットのトラブルがあるか」の質問については、明らかに減少している様子が見られた。この結果を見ると、少なからず柏市として、この2年間行ってきた数々の取り組みが成果として現れているのではないかとと思われる。その一端には、この巡回授業のプロジェクトも貢献しているのではないだろうか。

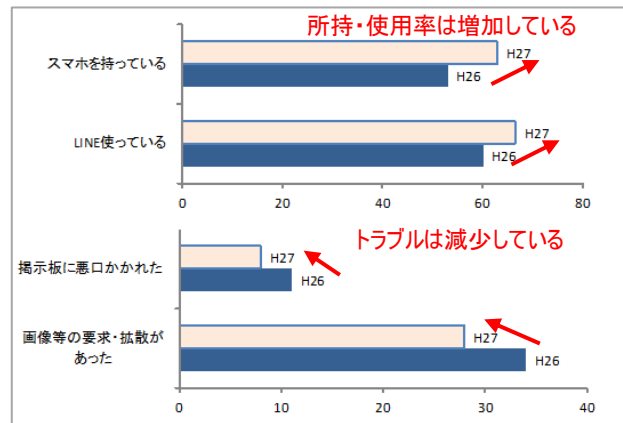


図6 学警連生活実態調査アンケートより(中学生)

5. 今後に向けて

学校や教育委員会が様々な取り組みを行っても、やはり家庭を巻き込まなくては、なかなか改善されない部分が多いと思われる。ITアドバイザーオンライン(WEB)に、スマホのフィルタリングや位置情報の設定方法などを掲載し、保護者へアナウンスしている。

少年補導センターに寄せられる、ネットのトラブルの事例が、年々低年齢化している事が見受けられる。さらに私たちの予想をはるかに超える内容の事件もおこってきている。学校や子ども達によって、格差が大きくなってきているのが感じられる。

この巡回授業に関しても、対象学年の見直しや内容の更なる検討を毎年重ねていく予定である。